令和6年度 岩手県民俗芸能フェスティバル

岩手の大地に舞う

＜出演＞　乙部さんさ踊り（盛岡市）　鬼柳鬼剣舞（北上市）　上京鹿子踊（大槌町）
行山流角懸鹿躍（奥州市）　南部藩壽松院年行司支配太神楽（釜石市）
日詰かじ町さんさ踊り（紫波町）　本郷神楽（一関市）

＜特別出演＞　江刺家神楽（岩手県立伊保内高等学校郷土芸能委員会）

QRコードからアクセスすると、公演の生映像をスマートフォン等でもご覧いただけます。
●YouTube「2024岩手の大地に舞う公式ch」

12月7日（土）

開場12：00　開演13：00

トーサイクラシックホール岩手
（岩手県民会館）

入場無料（一部を除き自由席）

※内容については一部変更になる場合があります。

主催／岩手県・（一社）岩手県文化財愛護協会
共催／（公財）岩手県文化振興事業団・岩手県民俗芸能団体協議会
後援／岩手県教育委員会・（一社）岩手県芸術文化協会・（公財）岩手県観光協会
（公財）盛岡観光コンベンション協会・岩手県高等学校文化連盟・岩手県中学校文化連盟
岩手県高等学校長協会・岩手県中学校長会・岩手県教職員組合・岩手県小学校長会
岩手県高等学校教職員組合・（一社）岩手県PTA連合会・（一社）岩手県私学協会
岩手日報社・IBC岩手放送・テレビ岩手・NHK盛岡放送局・めんこいテレビ
岩手朝日テレビ・岩手ケーブルテレビジョン・エフエム岩手・ラヂオ･もりおか

お問い合わせ　**（一社）岩手県文化財愛護協会**　〒020-0102　盛岡市上田字松屋敷34（岩手県立博物館内）
TEL＆FAX：019-661-9688　E-mail：ib.aigo@k6.dion.ne.jp

令和5年度岩手県民俗芸能フェスティバルより

出演団体紹介

乙部さんさ踊り（おとべさんさおどり）　（盛岡市）

言い伝えは天正12（1584）年、斯波氏の重臣であった大萱生氏が士気を高めるため、また諸霊の冥福を祈るために広められたとあるが、そののち家内安全、五穀豊穣を祈願しながら、地域の者たちによって受け継がれてきた。

唄と笛の音に合わせ太鼓と踊り手が輪になって踊るが、上下左右の動きが激しいので、腰から下げた帯が大きく揺れるのが特徴である。現在は老若男女の幅広い世代のメンバーで、伝統の継承に努めている。

上京鹿子踊（かみよししおどり）　（大槌町）

上京鹿子踊保存会は、400年前から伝わるといわれ、房州（現在の千葉県南部）生まれの人が釜石市栗林（沢田）で若者衆に鹿子踊を伝授したことから周辺にこの踊りが広まり、上京地区にもこの踊りが伝えられたとされる。踊りは別名「房州踊り」といわれ、元々地元に伝えられていた念仏踊りと融合し、現在の踊りが形作られたと推測される。鹿子踊の特徴は、必ず踊る前に誉め唄を歌ってから踊ることで、門・座敷・宿などを誉める。大槌稲荷神社・小鎚神社祭礼をはじめ、地元和野大明神・八幡神社の祭礼等で踊る。

南部藩壽松院年行司支配太神楽（なんぶはんじゅしょういんねんぎょうじしはいだいかぐら）（釜石市）

元禄12（1699）年、郷社釜石守護神、正一位尾崎大明神遙拝所建立の祭、南部藩御免札支配役盛岡七軒丁より伊勢神楽の一形態太神楽の指導を得、御神体の御供として奉納された。南部藩「十地方年行事」閉伊地方年行事を司る盛岡竹川稲荷別当玉鷲山城恩寺壽松院より年行司に任ぜられる。祭典では悪魔退散道々御旅所清浄守護職として先達露払を勤め、平成25（2013）年伊勢神宮式年遷宮奉納行事では大トリの奉納の大役を勤めた。

本郷神楽（ほんごうかぐら）　（一関市）

幕末から明治期に旧仙台藩領域北部の法印神楽、旧盛岡藩領域の山伏神楽などの影響を受けて発展した「南部神楽」である。セリフを語る演劇的な神楽が特徴。大正11（1922）年に葉山神社の代々神楽として結成され、以来、本郷地区の有志で継承してきた。伝統的な式舞とともにセリフ神楽の演目も多く継承し、地域の祭礼で披露して楽しんでもらっている。地域の子どもたちへは子供会と相談し、期間を区切って指導を行っている。平成28（2016）年一関市指定無形民俗文化財となっている。

鬼柳鬼剣舞（おにやなぎおにけんばい）　（北上市）

今から1300年前に起源があったとされており、悪魔退散、衆生済度、天下泰平、五穀豊穣など様々な祈りを込めて踊られるもので、修験の要素が見られる。威嚇的な面を付けて踊ることから「鬼剣舞」と呼ばれるが、仏の化身である五大明王を表しており面には角が無い。鬼柳鬼剣舞は昭和16（1941）年より始まり、社会人の踊り手のほか、子ども達が所属する「鬼柳鬼剣舞少年団」、そして女性だけで組織する「鬼柳鬼剣舞め組」と、年齢・性別問わず幅広い層が日々練習に励んでいる。

行山流角懸鹿躍（ぎょうざんりゅうつのかけししおどり）（奥州市）

文久3（1863）年に、同じ江刺の地ノ神鹿踊より伝授され創始された行山流山口派の太鼓系鹿踊である。戦中戦後の中断を経て昭和56（1981）年に再興し、以降現在まで伝承されている。私たちの踊組の「中立」がつける装束（背中の流し）には、東山大原の山口屋敷を祖とする行山流山口派を象徴する和歌が染められている。保存会ではこれまでも中高校生の受け入れを行っており、現在は中学生2名が両親と共に、踊り手として保存会の活動に参加している。

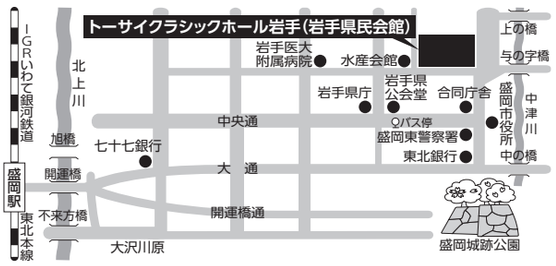
日詰かじ町さんさ踊り（ひづめかじまちさんさおどり）（紫波町）

日詰の鍛冶町はまちの北側に位置し、中心の商業地とは違った職人や農民の町として発展し、そこの人々は歌や芸能を好む人々でもあった。昭和10（1935）年頃、船久保さんさ踊りの名手としても活躍していた赤沢正悦氏が婿入りし、かじ町の人たちに自分で各地の芸能を取り入れたさんさ踊りを教え広めた。平成12（2000）年日詰かじ町さんさの会を発足、平成24（2012）年紫波町指定無形民俗文化財となり来年で結成25周年を迎える。幼児から高齢者までの参加者で現在も伝承されている。

〈特別出演〉

江刺家神楽（えさしかかぐら）（岩手県立伊保内高等学校）

起源は約480年前、京の都で仏教徒との争いに敗れた神信者の一人、聖剛院茂右衛門将が九戸村江刺家に住みつき、付近の山伏達に教えたのが始まりと言い伝えられている。岩手県の神楽三源流の一つと言われ、青森県下北半島まで伝播する神楽である。神が獅子頭の姿を借りて現れ、無病息災や五穀豊穣を祈祷する権現舞、神様の住む世界と私達の住む世界の間にある壁を解き放つ注連切舞、悪魔・厄を払うつるぎ舞、神様を楽しませる盆舞、神楽の終演を告げる切舞を組み合わせた構成である。



■トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）アクセス

盛岡市内丸 13-1（TEL019-624-1171）

□ JR 盛岡駅よりバス

「バスセンター」行　県庁・市役所前下車・徒歩２分

□お車をご利用の場合

県民会館及び周辺の有料駐車場をご利用ください。